

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300094		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター堀		
所在地	大阪府貝塚市堀1丁目2番6号		
自己評価作成日	平成26年1月6日	評価結果市町村受理日	平成26年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=2791300094-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームでの生活の中でお客様に役割を持っていただき、楽しみながら毎日行えるようにしています。近所のスーパー、魚屋さんに買物、地藏さんのお参り、へ出かけ地域の方とのふれあいも大切にしています。北幼稚園の園児さんとの交流も始まりお客様の生き生きできる生活してもらるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より3年目を迎える当該ホームは、「笑顔で挨拶」を理念に掲げ、利用者・家族や地域の方に対して、また職員同士も互いに笑顔で挨拶することを基本にしています。開設間もないということもありホームを地域に知ってもらうために地域交流に力を入れ、地域の地藏盆や老人会の行事に参加したり、ホーム主催のニチイ祭りへの招待の他、認知症をはじめ口腔ケアなど様々な講習会を開催したり、参加者が一緒に楽しめるようなホーム見学会も開催しています。今年度は幼稚園との交流が始まり一緒に制作をしたり、運動会を見に行ったり、敬老会には手紙をもらうなどの様々な交流を通して利用者の楽しみとなり笑顔につながっています。また利用者はホームで役割を持ちながらできることに日々取り組みながら毎日を過ごされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、申し送り時に社是と経営理念を全員で唱和し実践につなげている。	開設時に職員で考えられた「笑顔で挨拶」という理念を掲げています。利用者、家族に笑顔で挨拶する事を基本とし、地域の方に向けて交流のきっかけ作りとしています。毎日の申し送り等で理念にそった対応について管理者から話をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近郊のスーパー、魚屋さんに天気の良い日はお客様と一緒に買物に行うようにしています。地蔵盆に参加、北幼稚園、花のボランティア、詩吟のボランティアの交流があります。	町内会に加入し地域の地蔵盆や老人会行事へ参加しています。またホームを知ってもらうために認知症や口腔ケア等についての講習会を駅前で開催したり、ニチイ祭りや見学会にはホームへ地域の方に来てもらう取り組みをしています。今年度より幼稚園との様々な交流が始まり、今後は小学校等の交流も検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近郊の散歩に出かける事で地域住民の方に理解していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度必ずホームにて開催しています。市の担当者、家族等の参加のもと活動報告し意見や要望をお聞きしたりホームでの問題点を話しあっています。	会議は、市職員、地域包括センター職員、家族の参加を得て、年に6回開催しています。ホームの活動内容や利用者の状況の報告を行い、地域の情報をもらったり、他のホームの取り組みを教えてください運営に活かしています。困っている事を何でも話し合ったり、家族からは相談を受ける場にもなっており、有意義な会議になっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。貝塚市介護保険事業者連絡会で相談、研修などが行えるようになった。	運営推進会議への参加の他、グループホーム連絡会にも市職員の参加があり、またわからない事や事故報告など市役所へ直接管理者が出向いて伝え、ホームの現状を知ってもらいながら相談し協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り時、会議で研修を行っている。玄関の鍵については、夜間以外は常に開いています。	身体拘束をしないケアを基本とし、入居開始時に危険がありやむを得ない場合には家族と話し合い行いましたが、記録をしながら出来るだけ早く改善出来るように支援しています。拘束につながるような言葉掛けについても申し送りやカンファレンスで話しています。玄関、ユニットはセンサーが付いていますが解錠されており、利用者が外出したい際は職員と一緒に付き添ってします。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての法人の理念が書かれたポスターをホーム内に貼っており研修も行っている。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議や勉強会にて制度を理解する機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書に沿って、相手が納得されるまで分かりやすく説明するように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社として「顧客満足度調査」を行ったり、管理者を苦情等の窓口として、常に話しやすい環境作りに心がけている。頂いた意見等については改善に向けての話し合いをしている。	ほほえみ便り等で家族に利用者の様子を伝え、家族がホームに面会や行事、運営推進会議に来られた際に意見を聞く機会を持っています。出来るだけ本人に出来る事をさせて欲しいとの意見があり、職員間で話し合い自立支援に向けて取り組んでいます。また、法人によるアンケートを年に1回実施し、運営に反映しています。今後家族会も予定しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と常にコミュニケーションを図り毎月の会議等で意見交換している。	申し送り時や会議等で職員の意見を出し合い、管理者は職員とコミュニケーションを図るようにしています。管理者は職員が自分自身で答えを導けるような関わりを大切に、今後勉強会や見学会等を職員が主体となり話し合い開催するよう計画しています。また、法人の支店より管理者も含め個人面談が実施され、意見や提案を行う機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にはキャリアアップ制度を設けており、資格手当でもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の段階により研修制度を設けており資格手当でもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでに必ずアセスメントを行っている。ホームの見学等もしていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学をして頂いたり、センター方式を活用し、家族さまからご本人さまの生活状況や家族さまの要望などを把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定会を必ず行っている。場合によっては他のサービスや事業所を紹介することも行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に買物や、掃除、洗濯、料理等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様とも信頼関係を築く努力をしている。利用者が家族様と過ごす時間を大切に考えて支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と相談しながら、入居前に馴染みにされていた場所、知り合いの方との交流を支援している。	友人が来訪された時には、お茶を出して利用者とゆっくり寛いでもらえるようにしています。家族と一緒に墓参りや法事に行く際の支援や年賀状のやり取りなど、これまでの関係が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活が楽しくなるように、リビングでの座る席の配置を考えたり、共通の話題を考えたりしている。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に家族様にいつでも相談に応じることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及び家族様からなるべく沢山の情報をお聞きしてケアに活かせるように努力している。	入居時にアセスメント用紙に本人や家族から好きなことや希望等を聞いて記入し、意向を把握しています。入居後は利用者との関わりの中で情報を得ており、困難な場合は様子を見ながら家族に相談し職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時のケアマネージャさんなどから本人の了解の上、情報を提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員で情報交換を行い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書の作成前に必ずカンファレンス、モニタリングを行っており、家族様にも説明をし納得の上サインを頂いている。	利用者一人ひとりのアセスメントや希望、家族の意見を基に介護計画を作成し、3ヶ月毎に見直しています。見直しの際は、計画のモニタリングと再アセスメントを行い、家族の意向を確認し、職員の意見を聞いてサービス担当者会議を開催しています。往診時には医師の意見も聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過表、個別の介護記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に対応している。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会長さん、老人会さんに協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間体制の連携のとれたかかりつけ医がおり適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にホームの協力医との連携体制について説明し、希望のかかりつけ医を聞いています。協力医による2週間に1回往診があり24時間連絡可能な体制となっており、また2週間に1回看護師の訪問もあります。希望により歯科医の往診もあります。専門医への受診の際は家族と一緒に管理者が同行し情報の提供と把握をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	12月より訪問看護の受け入れをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時より病院関係者及び主治医、家族様と連携を取り、退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合について書類を交わしており説明をしている。	入居時にホームの重度化や看取りの支援に対する指針を説明しています。利用者の状況に合わせて家族、医師、ホーム側で話し合い、方針を共有し支援しています。今回看取りを経験し、勉強会やカンファレンスを頻繁に実施し、医師や看護師からもケアの方法を学び取り組みました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル・事故発生時マニュアル等で研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの下年2回の消防訓練を行っている。運営推進会議でも議題に取り上げて、地域との連携に働きかけている。	年に2回消防署立会いの下利用者と一緒に昼夜を想定した訓練を実施しています。また月1回津波を想定した誘導等の自主訓練を行っています。訓練の際は地域へ参加を呼びかけ、隣や近所の方には協力の依頼をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持を心がけ、プライバシーが守られるように配慮したケアを行っている。	利用者を尊重し丁寧な言葉掛けを心掛けています。排泄の支援の際には大きな声にならないように配慮したり、動作で表現するなどの対応をしています。不適切な場面があれば個別に注意するようにしています。今後接遇の勉強会は職員間で実施していく予定です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、ご本人の希望や意見を聞いたり、思いを引き出せるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者のペースを大切にしているが、充分とは言えない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった服装、好きな服を選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べやすいように工夫をしています。準備や片付けは出きるところは行っています。	献立は利用者の希望を聞きながら職員が立てています。買い物と一緒に رفتり、包丁やピーラーを使って野菜の下拵えやお盆を拭いたり、配膳、下膳、後片付け等出きる事をしてもらっています。出前を取ったり、行事の際は職員も一緒に食事を楽しんでいます。今後さらに食事が楽しみなものとなるように個別での外食も検討しています。	利用者と一緒に作った食事を職員ひとりでも一緒に食べる事で味や好き嫌い等会話が弾むのではないのでしょうか。また食事の際、一緒に食べない場合でも利用者の隣に職員も席に着き、会話が弾むような雰囲気づくりが期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は介護記録に個別に記載している。食事量、水分摂取が少ないときは食事量の中にプリンや牛乳だど好みの飲み物を聞いて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に対応している。		

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に対応している。定期的にトイレでの排泄をおこない、排泄リズムを整えるように行っている。	個々の排泄状況を記録し、その方に合わせて早めに声掛けと誘導を行い、トイレでの排泄の支援をしています。失敗があってもすぐにパッドを使用する事無く、また夜間はポータブルトイレを置くなど一人ひとりの状況に合わせた対応を職員間で話し合い、排泄の自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維食品、乳製品などを取り入れている。運動もおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本とし個々にあった支援を行っている。	朝から16時までの間で毎日入浴の準備を行い、毎日入る利用者もいますが、週に2回は入ってもらえるように支援してします。冬場はゆず湯を楽しんでもらっています。拒否される利用者には、無理強いをしないで、時間や職員を変えて声掛けをしたり、散歩に行ってタイミングを図る等工夫し入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を特にきめず、状況に応じた支援を行っている。個別に昼寝の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬局と連携を取りながら服薬支援をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活支援の中で一人ひとりの役割をもってもらっている。誕生日会、毎月の行事の企画を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、買物、老人会のイベント、地藏盆へ出かけている。	ホームの玄関や広い庭で外気浴をしたり、散歩や地藏参り、スーパーや近所の魚屋に買い物に出掛けています。その他初詣や花見に出掛けたり、幼稚園の運動会や老人会の行事にも参加しています。家族の支援で墓参りや法事への参加も支援しています。今後は個別外出を検討しています。	

ニチイケアセンター堀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別の対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。年賀状のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で整理整頓が常にできているように心がけている。空調温度もこまめに調整をしている。毎月季節にあった飾りつけをしている。	利用者と一緒に生けた花を玄関に置き、リビングには手作りの季節のカレンダーを飾り、季節感を感じてもらっています。一緒に掃除を行い換気にも気を配り、心地良く過ごせる環境を整えています。トイレにはわかり易いように床に目印があり、手すりにも印を付け混乱をまねかないように工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで座る位置については常に状況を考えながら変えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なるべくご本人が馴染みの筆筒や布団などを持ち込んでいただくようにしています。	入居の際は馴染みのものを持ってきてもらうように説明しています。仏壇やこれまで使用していた飾り棚、椅子、テレビなど安心して過ごせるように配置したり、大切にしている自作の作品や家族の写真を飾り、その人らしい居心地の良い居室作りをしています。以前の生活習慣を継続してベッドではなく布団で休まれる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前に名前を張ったり、トイレも直ぐわかるように表示している。		